

海外経済戦略対策特別委員会会議録

平成28年5月18日

場 所 第4委員会室

平成28年5月18日（水曜日）

午前10時0分開会

会議に付した案件

○概要説明

商工観光労働部、総合政策部、環境森林部、
農政水産部

1. みやざきグローバル戦略について

○協議事項

1. 委員会の調査事項等について
2. 調査活動方針・計画について
3. 県内調査について
4. 次回委員会について
5. その他

出席委員（11人）

委員	長	田口雄二
副委員	長	中野一則
委員		緒嶋雅晃
委員		蓬原正三
委員		中野廣明
委員		黒木正一
委員		日高陽一
委員		満行潤一
委員		高橋透
委員		渡辺創
委員		冨師博規

欠席委員（1人）

委員		重松幸次郎
----	--	-------

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

商工観光労働部

商工観光労働部長		中田哲朗
----------	--	------

商工観光労働部次長		菓子野信男
企業立地推進局長		黒木秀樹
観光経済交流局長		武田宗仁
部参事兼商工政策課長		黒木義博
産業振興課長		野間純利
産業集積推進室長		谷口浩太郎
企業立地課長		日高幹夫
観光推進課長		福嶋清美
記紀編さん記念事業推進室長		米良勝也
オールみやざき営業課長		酒匂重久

総合政策部

総合交通課長		野口和彦
フードビジネス推進課長		重黒木清

環境森林部

山村・木材振興課長		下沖誠
みやざきスギ活用推進室長		三重野裕通

農政水産部

ブランド・流通対策室長		原拓実
水産政策課長		田原健
畜産振興課長		坊菌正恒

事務局職員出席者

政策調査課主査		森田恵介
政策調査課主幹		黒木誠

○田口委員長 それでは、ただいまから海外経済戦略対策特別委員会を開会いたします。

まず、委員席の決定についてであります。ただいま御着席のとおり決定してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○田口委員長 それでは、そのように決定いた

します。

次に、本日の委員会の日程についてですが、お手元に配付の日程案をごらんください。

本日は、委員会設置後、初の委員会でありますので、まず、商工観光労働部から、当委員会の設置目的に関する事項として、みやざきグローバル戦略について説明をいただきます。

その後、調査事項及び調査活動方針・計画について御協議いただきたいと思いますが、このように取り進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○田口委員長 それでは、そのように決定いたします。

では、執行部入室のため暫時休憩いたします。

午前10時1分休憩

午前10時3分再開

○田口委員長 おはようございます。委員会を再開いたします。

本日は、商工観光労働部、総合政策部、環境森林部及び農政水産部においていただきました。

初めに一言、御挨拶を申し上げます。

私は、この特別委員会の委員長に選任されました延岡市選出の田口雄二でございます。

私ども12名が、さきの臨時県議会で委員として選任され、今後1年間、調査活動を実施してまいります。

当委員会の担う課題を解決するために努力してまいりたいと存じますので、御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

それでは、次に委員を紹介いたします。

最初に、私の隣がえびの市選出の中野一則副委員長です。

続きまして、皆様から見て左側、西臼杵郡選出の緒嶋雅晃委員です。

北諸県郡選出の蓬原正三委員です。

東諸県郡選出の中野廣明委員です。

東臼杵郡選出の黒木正一委員です。

次に、宮崎市選出の日高陽一委員です。

続きまして、皆様から見て右側、都城市選出の満行潤一委員です。

次に、日南市選出の高橋透委員です。

宮崎市選出の渡辺創委員です。

次に、同じく宮崎市選出の重松幸次郎委員ですが、本日は欠席をいたしております。

次に、児湯郡選出の凶師博規委員です。

以上で委員の紹介を終わります。

執行部の皆さんの紹介につきましては、出席者名簿をいただいておりますので、省略していただいております。

それでは、概要説明をお願いいたします。

○中田商工観光労働部長 おはようございます。商工観光労働部長の中田でございます。

本日は、先ほど委員長が申し上げましたとおり、商工観光労働部だけではなくて、総合政策部、環境森林部、農産水産部担当課長も参っておりますので、本日はどうぞよろしく願いいたします。

では、座って説明させていただきます。

もう御案内のとおりでございますけれども、最近の経済を取り巻く環境を見てみますと、TPPの大筋合意に象徴されます国際競争の激化や、人口減少に伴う国内市場の縮小といった厳しい状況にあるというふうに考えております。

こういう中で、海外の成長市場の活力を取り込むべく、県内企業におきましても、グローバルな事業展開を行っているところがふえてきているというふうに考えております。

このような中で、県におきましては、東アジアに軸足を置きながら、世界市場にも視野を広

げた経済交流の拡大等に取り組むため、みやざきグローバル戦略を策定し、ジェトロ宮崎貿易情報センターを初め、官民一体となって県内生産品の輸出促進、県内企業の海外進出支援などを行い、本県経済・産業の活性化を図っていくこととしております。

本日は、お配りしております特別委員会資料の目次にありますとおり、ただいまお話ししましたみやざきグローバル戦略について、御説明をさせていただきたいと考えております。

詳細につきましては、この後、担当課長のほうから御説明をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私のほうからは、以上でございます。

○酒匂オールみやざき営業課長 オールみやざき営業課でございます。私のほうから、みやざきグローバル戦略について、御説明をさせていただきます。

委員会資料の1ページをお開きください。

まず、1の策定の背景でございます。

県では、これまで平成24年3月に策定いたしました東アジア経済交流戦略に基づき、東アジアを中心に市場開拓に取り組んでまいりましたが、近年、EUでの牛肉の輸入解禁や東京オリンピック・パラリンピックの開催決定など、市場環境が変化してきており、また、県内企業がターゲットとする国や地域が多様化していることなどに対応するため、東アジア経済交流戦略を発展的に継承し、世界市場にも視野を広げた取り組みを推進し、海外との交流拡大を図るため、今年3月にみやざきグローバル戦略を策定したものでございます。

戦略では、2にありますとおり、目指す姿を「世界に開かれ、世界とともに成長するみやざき」と定め、3にありますとおり、外貨の獲得、

ビジネスチャンスの創出による本県経済・産業の活性化、経済のみならず、文化、スポーツなど多様な分野での海外との交流拡大を戦略の理念として掲げたところでございます。

4の計画期間であります。前計画の東アジア経済交流戦略は5年間でありましたけれども、市場環境の変化に応じて、より柔軟な対応を行っていくため、上位計画である県総合計画のアクションプランの終期に合わせ、平成28年度から平成30年度までの3年間としたところであります。

策定に当たりましては、5の策定経過にありますとおり、昨年度6月、12月、3月に商工建設常任委員会に、骨子案や最終案等を報告させていただくとともに、参考欄に記載のあります各種の経済団体、金融機関、大学等の皆様との2回の意見交換会を実施、さらには適宜、ジェトロ等の関係団体と意見交換を重ね、策定を進めてまいったところであります。

それでは、戦略の具体的な内容について、説明をさせていただきます。

次のページ、2ページのA3カラー刷りの資料をごらんください。

資料右上のほうになりますけれども、この戦略は、戦略の柱を囲んでおりますが、青色と緑色であらわしております5つの柱で構成をしております。

前戦略では、県産品の輸出促進、観光交流の推進、経済交流の基盤整備の3本柱でございましたけれども、上の段、青色のところ、県内生産品の輸出に加えまして、海外への進出を含めた、いわゆる外に打って出る海外への展開促進と、これまでの観光誘客に対内投資を加えました、内に活力を引き込む海外からの誘致推進という外貨の獲得、ビジネスチャンスの創出に直

接的につながる2つの柱を推進することとしております。

そして、これらを支える交流の基盤づくり、人づくり、きっかけづくりとして、下の段、緑色の経済交流の基盤整備に加えまして、グローバル人材の育成・確保、海外との連携・多様な交流の促進の3つの柱に取り組み、もって本県経済・産業の活性化につなげるという体系としたところでございます。

それでは、大変お手数をおかけしますが、資料をまたかえていただきまして、A4横の戦略の冊子のほうをお開きいただければと思います。

5ページになります。

こちらに世界地図を記載しておりますとおり、前戦略では東アジアを対象としておりましたが、戦略のターゲット、国・地域としましては、世界市場全体に視野を広げ、施策を推進することとしております。

それぞれの地域で取り組む施策を丸であらわしておりますとおり、前戦略に基づく取り組みの継続性や地理的な近さ、経済成長といった観点などから、東アジアやASEAN等を含むアジア地域が、丸の数が一番多くなっておりますけれども、アジアに軸足を置きつつ、EUや北米など他の地域についても、県内企業のニーズ等を踏まえ、地域ごとの濃淡をつけながら取り組んでまいりたいと考えております。

6ページをお開きください。

具体的な戦略展開の欄になります。

戦略1、海外への展開促進の（1）県内生産品の輸出促進の部分でございまして。

記載にありますとおり、このように5つの戦略の柱ごとに、それぞれ現状と課題を整理した上で、下の7ページにございまして、今後

の取り組み方針を具体的に取りまとめたところでございます。

9ページをお開きいただければと思います。

輸出実現に向けましては、ステップ1、左側になりますけれども、事前検討・準備からステップ2、チャレンジ輸出、ステップ3、本格的な輸出開始、そして最終的にはステップ4、継続的な輸出実現と、さまざまなステップがあるわけでございますけれども、下の段にございまして、ステップ1でございましたら、輸出セミナーの開催など、それぞれの段階に応じまして、きめ細かな一貫した支援を行うこととしておるところでございます。

次に、10ページをお開きください。

この戦略では、効果的・効率的に施策を推進するため、記載にありますとおり、国・地域別の展開の方向性を示したところでございます。

この国・地域別の展開の方向性につきましては、県内生産品の輸出の促進の欄だけではなく、17ページになりますけれども、観光誘客の推進、31ページになりますが、海外との連携・多様な交流の促進の分野でも、同様に示したところでございます。後ほどごらんいただければと存じます。

済みません、それでは、もう一度委員会資料の2ページのA3の概要版にお戻りいただければと思います。

それぞれの戦略の施策ごとの具体的な取り組み方針と新たな取り組み、重点的な取り組みについて、御説明をいたします。

資料の中ほど、左側になりますが、戦略1、海外への展開促進についてでございます。

ここでは、取り組み事項を1、県内生産品の輸出促進と、その右側、2、海外進出の支援に整理しております。

まず、1の県内生産品の輸出促進につきましては、今後の取り組み方針として、輸出に取り組みやすい環境づくりやマーケットインの商品づくりに取り組みこととし、新たな展開としまして、ジェトロ事務所の設置を生かした一貫した支援や、県内企業と海外企業を商流・物流の面で橋渡しをします地域商社の育成などに取り組みこととしております。

その右側の2の海外進出の支援につきましては、現地の投資環境等に関する情報提供等を図ることとし、その右側、ジェトロやJICA等の連携による投資セミナーや相談窓口の設置、企業の海外進出計画の策定等の支援に取り組みこととしております。

次に、その下の段、戦略2、海外からの誘致推進につきましては、取り組み事項を1、観光誘客の推進、右側の2、みやざきMICEの確立、その下の3、海外からの投資呼び込みの3点に整理しております。

まず、1、観光誘客の推進につきましては、受入環境の整備やターゲットを明確にした誘客促進等を図ることとし、その右側、宮崎版DMOの構築や、主要な観光地等でのWi-Fi整備等に取り組みこととしております。

また、右側2のみやざきMICEの確立では、MICE推進体制の整備などを図ることとし、大型国際MICEの誘致やMICEアンバサダーの任命等に取り組みこととしております。

さらに、下の段3の海外からの投資呼び込みでは、ターゲットを明確にした誘致活動の推進や、投資意欲のある企業の発掘などを図ることとし、ジェトロ等との連携による誘致ターゲットの選定や、ネットワークを活用した情報収集等に取り組みこととしております。

次に、右側の中ほど、緑色で記載しておりま

すけれども、戦略3の経済交流の基盤整備につきましては、取り組み事項を、1、航空ネットワークの維持・充実と、右側の2、海上ネットワークの維持・充実に分けて整理しております。

まず、1の航空ネットワークの維持・充実では、既存路線の維持・充実や新規路線の開拓等を図ることとし、空港における受入環境の充実やインバウンドをメインとしたチャーター便の誘致に、そして、2の海上ネットワークの維持・充実では、県内港湾の利用促進や航路の維持・充実を図ることとし、港湾機能の向上等に取り組みこととしております。

次に、その下の段、戦略4のグローバル人材の育成・確保につきましては、取り組み事項を、1、企業や大学等と連携した人材の育成・確保と、その右側、2、学校教育による人材育成に整理しています。

まず、1の企業や大学等と連携した人材の育成・確保では、産学金労官で構成するみやざき産業人財育成プラットフォームの構築や留学生の活用・研修生の受け入れ促進等を図ることとし、MBA、みやざきビジネスアカデミーでの企業の中核人材の育成、留学生の県内就職支援等に取り組みこととしております。

また、2の学校教育による人材育成では、国際理解教育の推進や海外留学の促進等を図るため、SGH、スーパーグローバルハイスクールをモデルとしました人材育成や、ホームステイ・留学等の支援窓口の設置等に取り組みこととしております。

最後に、戦略5の海外との連携・多様な交流の促進につきましては、海外自治体等との連携強化や、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした交流促進等を図ることとし、海外自治体とのさまざまな分野での提携・連携の推進

や、東京オリンピック・パラリンピック参加国を対象としたホスト・タウン構想の推進等に取り組むこととしております。

以上が、施策の柱ごとの今後の取り組み方針や、新たな取り組み等でございます。

最後に、一番下の右側、成果指標でございます。

この戦略に基づく各種施策の達成度を把握し、適宜取り組みの見直し等を行っていくため、成果指標を設定いたしております。

具体的には、戦略1では、海外展開の促進になりますけれども、輸出額と海外展開を行う中小企業数を、戦略2の海外からの誘致推進では、訪日外国人延べ宿泊者数や国外からのクルーズ船寄港回数など、戦略3では、経済交流の基盤整備になりますけれども、県内港湾におけるコンテナ貨物取扱数を定めております。戦略の柱ごとに、合計で10個の成果指標を定めたところでございます。

戦略の推進に当たりましては、資料の中ほど左側、5の推進体制というところがございます。ここにありますとおり、庁内に宮崎県グローバル戦略推進本部、これは、知事を本部長といたしますけれども、設置をいたしまして、あした、第1回目の会合の開催を予定しておりますが、今後、毎年、指標の進捗管理をしっかりと行いながら、庁内はもとより、ジェトロ宮崎貿易情報センターを初め、市町村、経済界など、産学官がしっかりと連携し、オールみやぎきの体制で戦略の推進に努めてまいりたいと考えております。

説明は、以上であります。

○田口委員長 執行部の説明が終了いたしました。

御意見、質疑がございましたら、委員の皆様

の御発言をお願いいたします。

○函師委員 まず、このみやぎきグローバル戦略資料の6ページなんですけれども、現状と課題の4行目からありますメディカル分野におけるタイを中心としたASEAN諸国に対しての、医療機器の輸出またその人材、技術等の輸出に関してなんですけど、大変興味を持っておりまして、タイにおけるトレーニングセンターの開設予定とありますが、具体的にどのように進んでいるのか教えてください。

○谷口産業集積推進室長 東九州メディカルバレー構想におきまして、海外展開しておりますが、この中では大学、例えば、県内の九州保健福祉大学、それから宮崎大学、それぞれタイとの交流がございまして、そこの交流を生かしながら、向こうの技術者にも来ていただいて、日本の医療それから医療機器、宮崎県での医療機器の工場等を視察していただいております。そういった理解をしていただく。

そういった活動の中で、九州保健福祉大学が、タイのタマサート大学というところと協定を結んでおります。それをもとに、タイのほうで臨床工学の課程、これは、タイのほうではまだそういう制度がないんですが、いわゆる医療機器のメンテナンス、それから操作等、そういったものに携わる人材育成のプログラムをタイのほうでもつくりたいという話がありまして、九州保健福祉大学との協力・指導のもとに、タイのタマサート大学がこういったトレーニングセンターをつくるということで、現在、話が進んでおります。

私どもといたしましては、そこのトレーニングセンターにおきまして、できれば日本の医療機器、宮崎県の医療機器等もとに、いろんな人材育成、要するに、機械を向こうで扱える人

も育成しながら、それと同時に、本県の、日本の医療機器をタイに持ち込むということで連携して、海外展開を進めていきたいというふうに考えているところです。

○**函師委員** その展開、すばらしい戦略だと思うんです。欧米の医療機器メーカーがやる常套手段であるんですが、やはり後進国から人材育成を看板に、技術者の養成を行うと。その養成が済むと、自国の医療機器と一緒に帰ってもらうと。そこの自国で、その医療機器をどんどん広めてもらうという、その戦略に重ねた非常にいいやり方だと思っております。

なぜタイなのかというところは、もうそれは、大学側の努力によるということでもいいと思うんですが、ぜひ、このトレーニングセンターの開設にあわせて、県も部局連携して、大いにこれをバックアップして行ってほしいなと思います。

大学任せにするのではなく、看護大学のほうとか、あとは九州保健福祉大学だけに任せるのではなくて、例えば、トレーニング開設に当たっての実際の建設費の一部補助とか、それは、ちょっと極端ですが、例えばです。もしくは、技術者なり指導員が日本からも、宮崎からも行くと思うんですが、そういう場合の渡航費の補助とか、ぜひそういうのを具体的にされるといいと思いますし、これが実を結べば、成果指標の中にあります輸出額の1,700億円、御存じのとおり、透析機器というのは非常に高価なものがありますし、それに付随するものも、消耗品もたくさんあります。ですから、ここの道ができれば、この輸出額もどんどんうなぎ登りになってくるのは、本当、簡単に想像できることですので、より積極的に支援していただきたいと思うんですが、今後の展開は、どのような考えが

あられるのでしょうか。

○**谷口産業集積推進室長** 今後とも、こういった大学の交流、こういったものも支援していきたいというふうに考えております。こういう支援を通じて、大学は大学でいろんな人材交流、それから教育という部分、それにあわせてこちらの産業界、それから、我々行政も含めて連携して、このパイプを活用させていただいて、より浸透するように努めていきたいというふうに考えております。

○**函師委員** より具体的な施策の案にさせていただきたいと思ひますし、ぜひ機会があれば、この大学側との交流もしていきたいなと思っておりますので、またよろしく願いいたします。

次、続けて。

この大きな資料の成果表の中の、私は、戦略の4番目にちょっと注目をいたしまして、県内で雇用されている外国人の労働者数というのは、これは、目標値ではあるんですが、現在の数値はどのようになっているのか。産業別で、大体でいいんですが、わかれば教えてください。

○**酒匂オールみやざき営業課長** 外国人の労働者の数でございますけれども、宮崎労働局が取りまとめておりまして、平成26年10月末現在の数字でございますが、1,885人となっております。

○**函師委員** 産業別にわかりますか。

○**酒匂オールみやざき営業課長** 済みません、手持ちの資料では、事業所の規模別の数は持つておるんですが、産業別の数字はちょっと持ち合わせておりません。

○**函師委員** 私が注目しているのは、今後は、やはり少子高齢化に伴って、県内でも労働力の低下がどんどん進んでいくことは、もう明らかになっておりますので、個人的には外国からの労働力にも大いに期待をしたいと思ひますし、

農業分野、医療・福祉分野、建設業・建築業分野にもどんどん。あとは、そこそこの分野における資格を取得するというようなハードルもございしますが、そういうものを取得していく。また、その方々が宮崎で住んでいただくための環境づくりということにも、具体的な支援をしていくべきだと思うんですが、実際、平成30年までに約500人ぐらいの増加を見込んでおる数字となっておるんですが、さらにこれを増強させていくためにも、やはり具体的な支援策が必要かと思っておりますが、どのようなビジョンを持たれているか教えてください。

○酒匂オールみやざき営業課長 先ほど申しましたとおり、現況値を直近の形で1,885人に定めまして、4年後の目標数値を2,260人とさせていただいたところでございます。

その根拠といたしましては、平成23年が1,618人、平成24年が1,634人、平成25年が1,730人等と、増加幅にはばらつきがありますが、直近値を見ますと、平成23年と比べまして116.5%ふえたということで、今後4年間の伸び率を20%として定めたところでございます。

どう進めていくかというところでございますけれども、先ほどの資料のA3版のところがございますが、戦略4の1番の新たな展開例の下のほうに、留学生の県内就職支援というのを掲げておるんですけれども、県内に多くの留学生も来ております。あるいは、外国語指導助手とか国際交流員等がおりまして、優秀な人材が来ておりますので、この留学生なり国際交流員等がそのまま残って、宮崎県のために働いてもらうような取り組みを、今年度、九州全体でも取り組みをさせていただくことで、企業と留学生がそれぞれマッチングの登録をしまして、マッチングをする機会を九州全体でつくっていこう

としております。

その中で、宮崎県も、独自の予算を認めていただきまして、県独自でのマッチングの機会等をつくっていきたくて思っております、こういった方々に残っていただくような取り組みを進めることで、指標の達成を目指していきたいと考えているところでございます。

○図師委員 最後にしますが、留学生の県内就職を推進というのもすばらしい取り組みだと思いますし、先ほど私が言いました農業部門、医療・福祉部門の人材不足も明らかでありますので、特にJA都城がインドネシアからの、フィリピンだったかな、技術者、研修生の受け入れを大規模に進め始めたというものもありますし、一方では、まだ宮崎県には介護士、看護師の研修生の受け入れ実績はゼロという、全国では数少ない自治体でもありますので、そういう部分にも光を当てつつ、この雇用の拡大を図っていただきたいとは思っています。意見です。

以上です。

○田口委員長 ほかにございませんか。

○渡辺委員 ちょっと基本的なことを幾つか伺わせていただきますが、戦略もできて、戦略推進本部もできて、28年度から本格的にということだろうと思いますが、各部にわたって事業展開をされているんだと思いますけれども、例えば、今年度予算で、このグローバル戦略にかかわる各部の事業費の合計というのは、戦略本部なりで把握をなさってらっしゃるのでしょうか。

○酒匂オールみやざき営業課長 グローバル関係の予算でございますが、平成28年度当初の分と、平成27年度の補正で認めていただいた分がございまして、合せた金額になりますが、5つの柱トータルで11億3,800万円というのが予算ベースでございます。

ちなみに、東アジアの戦略、前年度が、平成27年度でございますけれども、東アジアの分が約4億8,800万円でございます。ただ、戦略の柱の数等も違いますので、単純には比較できませんけれども、きちんと予算を確保して、各部で取り組んでいきたいと考えているところでございます。

○渡辺委員 済みません、こちらで調べればいいことなんですけれども、各部別の予算もわかっているれば教えてもらえますか。

○酒匂オールみやざき営業課長 済みません、手持ちではちょっと持っておりません。柱ごとの金額であれば申し上げますが、それによろしいでしょうか。各部ごとがよろしかったでしょうか。

○渡辺委員 わからないことはわからないで結構なんですけど、別に苦言を言っているつもりではないんですけれども、県としてその推進本部をつくって、部局横断的に取り組もうというときだからこそ、そういう、ことしこの委員会においていただいた問題にしても、各部がいろいろなことに取り組んでいらっしやって、それは非常に大事なことで、それぞれの部の立場からの戦略もあるでしょうし、事業もあるというのはよくわかるんですが、みんなでやって、県全体でどうなっているのかがわからないっていう問題の意識が僕らのほうにもあって。ですので、そういう基本的なところも少し、柱別でっていうのはよくわかるんですけれども、本部がある以上、県としても把握ができていないと、なかなかなんじゃないのかなという気がしますので、それを申し上げたいと思います。

あと……。

○田口委員長 後で資料をもらいますか。

○渡辺委員 できれば、いただければありがた

いです。

○田口委員長 済みません、後で、また資料として全員に配っていただけますか。お願いいたします。

○渡辺委員 あともう一点、済みません、いいですか。

○酒匂オールみやざき営業課長 後ほど、資料として提出をさせていただきます。

○渡辺委員 もう一点です、いいですか。県内の市町村でも、さまざまな東アジアへ向けた戦略をやっているかと思うんですが、その状況把握であったりとか、いろいろな会議体がありますから、そういうところで意見等々があるんでしょうけれども、市町村の取り組み、例えば、宮崎市ぐらいの規模があれば、それなりのことをいろいろやっていると思うんですけれども、その辺も、県との情報共有であったり、施策の整合性とか一致状況はどうなっていましたか。

○酒匂オールみやざき営業課長 県産品の輸出の関係で申し上げますと、宮崎市さんが、シンガポールへの輸出促進に大変積極的でございます。私どもがいろいろ持っておりますフェア等の開催に当たりましては、十分連携しながら取り組みをさせていただいております。

また、都城市さんは、モンゴル等の連携等も、昔から取り組まれております。そういったものについても支援をさせていただいておりますし、例えば、延岡市さんであれば、今、ミャンマーとの技術交流と、地元の工業会、工業の皆様方は大変積極的でございます。これについては昨年度、ミッション等の派遣をいたしました。その際、県のほうからも商工観光労働部次長が参加して、一緒になって交流等に臨んだところでございます。

かような例示になりますけれども、私どもと

いたしましては、十分市町村と連携しながら取り組みを進めていきたいと考えているところでございます。

○渡辺委員 大きな柱からはちょっと外れるかもしれませんが。この資料のほうの5ページですが、戦略のターゲット、国・地域ということで、ほぼ世界を網羅する地域のことが載っていますが、丸の数で強弱があるということだろうというふうに理解をしますけれども、この資料の中で、各ページに出てくるいろんな取り組みのある地域を外すと、中東、アフリカ、それから非EUの欧州、オセアニア、中南米。中南米は、多様な交流促進というのがついているのは、恐らく県人会とかのことを指しているんだろうというふうに思いますけれども、実態として、この3年間で、たまたまラッキーなケースで、この地域から何か県に申し出があったとかってというような話があった場合は別として、外した地域のところについても、丸が2つはついているわけですが、何らかの実質的な取り組みが行われる可能性はあるというふうに考えていいのか。まずは、そうじゃない、丸のたくさんついている地域から取り組むというのが、この3カ年の状況なんだというふうに理解したらいいのか、そこはいかがでしょうか。

○酒匂オールみやざき営業課長 まさに前は東アジア戦略ということで、東アジアをターゲットとしたものでありましたけれども、グローバル戦略ということで、委員がおっしゃるとおり、全世界を対象にするというところはございます。

その中で、先ほど申し上げました輸出ですとか、観光ですとか、交流につきましては、それぞれの地域ごとの、地域別の展開、方向性というのをしっかりと定めて取り組むこととしておりますけれども、そういったものを定めないと

ころにつきましては、我々から積極的にということよりも、企業の皆様方のニーズ等を十分踏まえながら、それに対応していくということになろうかなと思っておりまして、先ほどもおっしゃいました、濃淡をつけながらというような、委員がおっしゃるとおり、そういったところの分もございます。

○渡辺委員 今言った主要なところから外れている地域に、県内企業からの進出の実績とか実数というのは、今、あるんでしょうか。

○酒匂オールみやざき営業課長 進出企業数の実数については、また後ほど確認しますが、例えば、ドバイで今回はどこに位置づけるかというのがあるんですが、中東、アフリカになるかと思うんですが、企業におかれては、ドバイあたりに輸出をしっかりと取り組んでいきたいというような企業等もいらっしゃいますし、そういったところについては支援をしていきたいと思っております。

○渡辺委員 ありがとうございます。

○田口委員長 ほかにございますか。

○蓬原委員 この横長の2ページの成果指標のところでお尋ねしておきたいんですが、海外展開の中の、当然輸出は、宮崎におりながら物品を海外に持っていきこうということでの戦略でわかるんですが、進出という言い方。ベトナムだったかな、例えば、東郷メディカルなんか向こうに現地工場をつくっていますが、宮崎県の企業で、海外、東南アジアが中心になるんでしょうけれど、中国等もあるかもしれません。進出している企業というのは、今、つかんでおられますか。

○酒匂オールみやざき営業課長 私どもは、毎年度、貿易企業実態調査を実施しているんですが、その中で、海外進出をされているか

という状況についても把握をさせていただいておりまして、現時点で*64社という数字を把握しているところでございます。

毎年2社ぐらいずつの程度の伸びを目標として、この270社のうちの内数で、約70という数字を考えているところでございます。

○蓬原委員 その実績ということですが、一覧表は60と、結構多いなという印象なんですけど、それは、内訳は別に企業秘密は関係ないと思うんですけども、我々にいただけるのでしょうか。

○酒匂オールみやざき営業課長 済みません、訂正をさせていただきますと、この計画をつくった時点での数字が64でございましたが、その後の貿易企業実態調査の新しい数字でいきますと、67というところを把握いたしております。

非公表を前提に集めさせていただいているところがございまして、企業の皆様の情報等もございまして、できましたら差し控えさせていただければと考えているところでございます。

○蓬原委員 県内の状況を把握するという意味で、会社名を出すのが無理であれば、A社、B社、どういう業態のところ、どこに出しているという、それは必要。それがないと、戦略を考える上で、ちょっと不備じゃないかなと思うんですけど、それはどうなんですか。それは、企業秘密とか、関係ないと思うんです。

○酒匂オールみやざき営業課長 どこまで御期待に込えられるか、御要望に込えられるかわかりませんが、進出状況については、進出国別とか、ちょっと工夫して提示をしたいと思っております。

○蓬原委員 工夫して、我々にも教えてください。というのは、外貨の獲得というのが、このグローバル戦略の理念の中にあるわけですけども、最終的には宮崎県として、所得の低い宮崎県をどうやって経済的に活性化して、所得を

上げて、他県並みに数字を持っていくかという、その大きな目的があると思うんです。

外貨の獲得ということなんですが、ようやく今、我々は県際収支の議論をしてきました。国際収支があります。貿易収支、サービス収支、所得収支、でもこれが、非常に今、改善されて、貿易収支もサービス収支もよくなって、外国人旅行者も、サービス収支にはふえている。貿易収支については、原油が下がったとかいろいろ言われていますよね。ここに来て、ずっと赤字になっていた日本経済も、いわゆる経常収支がよくなってきたという、この前の報道があります。

その中の、所得収支の中の企業進出に、今、目を当てていっているわけなんですけど、インバウンドと、それから輸出額についてもここに書いてありますので、だから、最終的には所得収支、宮崎県の企業が、砕けた言い方をすれば、いわゆる出稼ぎで、海外でどれだけ稼いできてらっしゃるのかなということを知りたかったわけなんです。将来的に、所得収支の分を宮崎県としてどうやって上げていくのかと。いわゆる外貨稼ぎですよ。まさしく外貨稼ぎですよ。ということで、その数字を、今、とりあえず知りたかったという。どういう進出をされているのか、どういう業態なのかということを知りたかったということなんです。

ぜひ、その資料は大事な資料だと思うので、よろしくをお願いします。

○田口委員長 今ので、資料を出してくれということによろしいんですか。

○蓬原委員 きょうは、まずはそこですね。

○田口委員長 大丈夫ですか。

○酒匂オールみやざき営業課長 しかるべき資

※このページ左段に訂正発言あり

料を出させていただければと思います。

○田口委員長 よろしくお願いいたします。

○蓬原委員 繰り返します。会社名は要りませんから、A社、B社でもいいわけですから、そこは、全体が把握できるようにお願いをいたします。企業の規模もお願いします。

○緒嶋委員 成果指標の輸出額が1,700億円、これは、30年だと思いうんですけれども、今、平成26年が1,500億円。これは、品目別にはどういう形になっているわけですか。1,500億円が、また1,700億円になるには、どういう形で輸出額の品目は変わるのかと。

○酒匂オールみやざき営業課長 現況値、平成26年直近の数字で1,507億円というものを、4年後、30年度には1,700億円にしたいということでございまして、具体的な細かい数字の積み上げということではございませんで、毎年3%程度の伸びを見込んだ目標数値として、今回は定めさせていただいたところでございます。

○緒嶋委員 そうすると、その3%は、それはいいわけけれども、それでは、今の1,500億の実態はどうなっているわけ。

○酒匂オールみやざき営業課長 貿易企業実態調査の1,500億円、総額になりますが、食料品及び飲料品が、その中の18億7,600万円余でございます。原材料が、18億4,000万円ほどでございます。鉱物性燃料が1,700万円、そういった細かい項目ごとでしております。石油とか……、（発言する者あり）済みません、170億円でございます。

また後ほど、貿易企業実態調査がございまして、その資料も提出させていただければと思います。

○緒嶋委員 ちょっとこれは詳しく、やはりアバウトなことだけでも、これは問題だと思いうんです。ある程度、本当にどういうものが、食料

品でも輸出されておるのか。そのためには、下のほうで、この今後の取り組みなんかで、環境整備をやらないかと。それは、輸出するためには、いつも中野委員も言われておるんですが、食肉の処理場がないじゃないかと、外国に輸出するのに、鹿児島に頼っているじゃないかというようなことも、課題としてあるわけです。そういうのをどうするかということも、将来的にはやっていかないかんわけで。

そういうことであれば、現在の具体的な輸出額の内容が明確になって、それをもとに対策を立てて3%ずつ伸びますということの、説得力のあるものをつくっていかなくちゃ、これを将来的に伸びるということについて、誰も反対するものはいないけれども、具体的にそれがどう進むかということ、我々もそれを理解ができなければ、1,700億円かどうなるかも全然わからんまま、3年後には1,700億円になりますだけでは、本当にビジョンある取り組みというふうには、私は見えないんじゃないかという気がするので、やはりそれは、達成するための目標じゃなくや意味がないわけでありまして、そのあたりの説得力のある指標というか、試算をやはり我々に提示してほしいなど。

そして、宮崎県のお話がありましたとおり、やはり輸出をふやすことで、県民生活を豊かにするというのが、このグローバル戦略の大きな目標でもあるというふうに思いますので、そのようなことを含めて、夢のあるものが本当に実現できなければ意味がないわけですので、ぜひ、そういうものを出してほしいということを要望しておきます。

○酒匂オールみやざき営業課長 まず、今回の指標の根拠となっております貿易企業実態調査におきます輸出の品目ごとの数字等々について

は、お示しをさせていただきたいと思えます。

今回、私どもの輸出の額全体として目標を設定した理由といたしましては、やはり、先ほどありました県際収支、県と海外との間の収支の全体として改善していきたいとの思いもございまして、今回は、さまざまな品目はあったわけですが、まず総体として、目標として毎年3%ずつ伸びていくというような形で目標を設定させていただいたところでございます。

いずれにしても、基礎となっております貿易企業実態調査については、後ほど、また提出させていただきます。

○中野委員 このグローバル戦略の概要、考えられることを大体網羅しているかなと思うんです。さっき言ったこの輸出額、これも、その統計を国が出したりしているもので、例えば、この中にはホンダなんか海外に持っているよね。要は、独自でやっている部分の数値が物すごく大きい。ここら辺の、この270社、1回、さっき言った一覧。結果としては何かというと、そういうのをいれてこれだけ伸びましたという報告になるわけ。だから、やっぱり県がしっかりタッチした部分の伸びが出てこんど、本当に、私は、これだけ並べてグローバル、部長も海外と一緒にいったけれども、物を売り込むっちゃ、そう簡単じゃないよね。グローバル人材って、どんなふう定義するの。

きょう出席の皆様、みんなこの事業に関係している課長っていいわけ。この中で、台湾、香港、上海、韓国、みんな行った人は何人おるんですか。（発言する者あり）

いや、みんな1回ぐらい行っておるやろうけど、俺たちは、本当、部会とかいろんな、香港とか行ったときに、デパートを回ったりして、棚を見てきて、スマホで撮って、ちょっと形成

したアメリカ牛200グラムが、今、香港で446ドル、日本円にして669円とか、そんなの調査しとるけれども、簡単に入り込むというのは、本当にこれは。それも、いいんですよ、やるのはいいけれど、やり方として直接行政がやる。そして、行政も、3年ぐらいでみんな担当変わってしょう。こういう中じゃ、こういうのをやるためには、やっぱりもう民間のそういう専門業者、ここをある程度入れて、そこに販促費を流すとか。だから、やったということにウエートを置くのか、結果を求めるのか。私は、少しはそういう考え、戦略をいかに、逆に県内で、小さい貿易商社を、私が知っているのでは、中国の品を売ったり買ったりしている、そんなところ。

昔は、最初、上海に駐在員を置いたときは、小さい貿易会社の社員を兼務で置いたと思う。やっぱりそういう専門分野っていうのは、本当に売り込みなんて、こんなペーパーで、毎月か毎年か知らんけれど、知事を入れて対策本部会議や、1回、中身がどんな検討がされておるか見せてもらいたいちゃけれども。

これ、本当に今言ったように、いかに外貨、県内の製造業を含めて、観光を含めてやるかということやから、もうちょっと実態。これはこれでいいですよ。これをするためには、本当に県職員、それと、今、県内で海外に行っているなら、要は、もう自分たちが率先して、こういう予算があるから行きましようといった、やるところじゃないわけ。最初から自分たちがそれをして。だから、そういうところを逆に支援するとか、それを逆に重きを置いてやるべきやと。

これだけやったら、これだけ関係課が来とるのに、どこで責任を持ってやるのという話で、グローバル、グローバルって。部長、グローバ

ル人材って、どういう意味。俺は、これはこれでいいから、もうちょっと的を絞って、最終的にはみやざきグローバル戦略の評価になると、何項目が上がってくる。これは、今からやけれども、輸出量がどうかとか、観光客がどうかとか、ある程度限られてくるでしょう。

○中田商工観光労働部長 この輸出額は、本当、委員がおっしゃったとおり、県内の大企業も含めた、ホンダロックでありますとか、旭化成でありますとか、あと、オーツタイヤ等、大企業も当然入っておりますので、そこについては県が直接関与するというようなところでは、もちろんないわけです。

ただ、ここでいろいろ書いていますけれども、港湾の利用促進とか、あるいはC I Q体制の整備とか、県として関与できる部分は、間接的ではありますから、輸出促進等に資するような基盤整備等は、当然やっていかないといけないと思っています。

本来県がやるべきところというのは、中小企業、農業あたりも含めて、県産品をいかに売っていくか、あるいは海外からいかに人を呼び込むか、投資をしてもらうかというところだというふうに思っておりますけれども、そのあたりにつきましては、当然しっかりと目標を定めて、当然地域も含めて、今、アジアが中心になっておりますけれども、例えば香港であれば農産物、牛肉とかカンショとかを輸出とかしておりますけれども、そのあたりは、しっかりと目標を定めてやっていかないといけないと思っております。

あと、人材につきましては、当然自分で、例えば輸出の手続きができるかという、なかなかできないわけですね。ノウハウもありませんので、そのあたりをしっかりと勉強してもらうよ

うなセミナーをやったり、リスク管理もしっかりしていかないといけませんので、そのあたりの勉強をしていただくとか。いわゆる経営者であったり、そういうことを取り扱う職員に、そういう知識なりをしっかりと身につけていただいて、間違いのないような形で海外との取引ができるような人たちを、1人でも2人でもつくっていくことが、我々は重要だと思っておりますので、そういうのを一応全庁的にやっていきたいというふうに考えています。

○中野委員 いろいろそれでいいと思うけれども、やっぱり今は、県内で海外と取引しているところ、これは、もう網羅できているわね。やっぱりそういうところを全面的に、どんな支援ができるかというのを一からやりよったら、もう既に個人やらでやっているところは、それぞれあるって。やっぱりそういうところを伸ばして支援したほうが、俺は、効果が出ると思うよ。一から始めるなんて、本当、海外戦略、こんな担当所あったら、みんな、香港とかそこ辺を1日ぐらい行って、デパート回りぐらいして、どんな流通になつとるかぐらい。みんなそんぐらい、部長、積極的に出して見てこんとよ。担当が、計画ばかりして、実態がわからんじゃ、全然あんた、普通じゃったら商売にならん。行政は、そんなこと言わんけれどね。ぜひ、戦略。

それから、ジェットロというのは、今は違うかもわからんけれど、ただ、いろんな資料はくれるんですよね。今はあれですか、ジェットロというのは、そういう個別的な案件まで紹介して、事業まで具体的にサポートするっていう。具体的に、今、どんな。みんな、ジェットロ、ジェットロって騒いどるけれど、香港に、ジェットロに行っても、全国から行って、同じ資料をくれるわけ。立ち上がってあれやけれども、今、具体的に言

うと、ジェットロというのは、どんな状況ですか。

○酒匂オールみやざき営業課長 ジェトロの宮崎貿易事務所の実績でございますけれども、昨年10月の28日にオープンいたしまして、約5カ月が経過しております。

その中で、貿易投資の相談を受けた件数が、これは、相談内容を受け付けて、解決したカウントで上げております。ですから、もう既に相談を受けて終わったという件数でございますけれども、トータルで94件ございます。それ以外にも、今、進行中の案件をいっぱい抱えているということでございまして、もう既に全部受けて片づいた件数が、今、94件というところでございます。

それ以外には、先ほど部長が申し上げましたさまざまなステージに応じた講演会、セミナー等を開催いたしておりますし、委員がおっしゃったジェトロの海外事務所に行けば、一般的な相談、ブリーフィングといえますか、現地の情報等についてのレクチャーなり、情報提供をしておりますし、また、個別の企業に対します販路開拓支援というものでは、輸出有望案件発掘支援プロジェクトというのを持っております、各分野の専門家が、戦略の策定から契約締結まで一貫してサポートをしましょうという事業でございます。この案件につきましては、宮崎が、開設前からの案件もございまして、今、4社に全面的な支援をしているというふうに聞いております。

それ以外にも、先ほど、タイの医療関係のお話もありましたけれども、タイのほうから透析分野の専門家を招聘する事業ですとか、産業観光の連携事業ということで、ヨーロッパやアメリカ、香港等からのそういった有力なバイヤー、あるいは発信力のあるプレスの関係者を呼ぶと

いった、さまざまな支援をいただいているところでございます。

○中野委員 だから、ジェトロがそういう、いいことだと思う。そういう中身については、県とは全然、タイアップして、後、フォローするとかいうことはないわけ。ただ、どういう案件があつて、結果はこうでしたという数値だけもらうわけ。

○酒匂オールみやざき営業課長 いえ、私も、定期的に意見交換、情報交換をやっておりますし、先ほど言いましたそのような要望案件につきましても、私どもが受けた案件、あるいは把握した案件についても、しっかりとジェトロにつないだりもしております。

また、宮崎事務所だけではなくて、本部と直接定期的なテレビ会議というのも開催するなど、これは、全国初になりますけれども、緊密な連携をとりながら、県内企業等の支援に取り組んでいるところでございます。

○中野委員 ぜひ、結果っていうのかな、この国が出している統計とか、大企業の支店やらといった、今の県内の製造業算出額を見ても、金属とか、鉄鋼とか、いわゆるあんまり県が関与してないような部分がかなりのウエートを占めているわけ。ですから、ここら辺も、これはこれでいいとして、やっぱり県がグローバル戦略とか立てて、11億円予算を使った結果がどうなるかっていうのが、やっぱり括弧内でわかるようにしてもらわんと、この全体的な表が伸びましたっていう、フードビジネスもそうだけれども、そこ辺はやっぱりしっかり数字がある程度わかる範囲でいい。

ただ、270社っていうのは、これは、もう名簿をとろうと思えばとれるやろうから、その中で大体できると思う。ぜひ、そういうことで、概

要としては別にどうということないけれども、やっぱり実態を踏まえて。

ぜひ、みんな、現場がどんなに苦しい、売りが難しいかというのを見にいかんとだめ。逆に、これを今やって、これからします。本当は、もうみんな、上海だって、香港だって、かなり事務所を置いてやっているわけ。本当は、そこ辺の意見を踏まえてどうするかっていうのも、ある程度出てきていいわけで、また一からこんなのを立ち上げますという話もおかしいと思うけれども、それはそれ。知事も、変われば新しい打ち出し方がしたいやろうけれども、要は、中身は続いとるわけやから、しっかり現場を見らんと。

本当、こういう計画というのは、進出計画をするように、招致をやるのでも、そんな具体的な計画っていうのはない。要は、バイヤーを通じて買ってくれるか、売ってくれるかの話で、あんまりそんな、計画つくるのに補助金を出すとか、今の国のやり方やけれども、計画書をつくるという話じゃ、本当、そんなウエートをかけたら。ぜひ、実態を見ながら頑張ってください。

○高橋委員 人材育成・確保のところ、まず確認しますが、文科省が指定しているスーパーグローバルハイスクールは、県は2校ですか。

○酒匂オールみやざき営業課長 委員が御指摘のとおり、宮崎大宮高校と五ヶ瀬中等教育学校の2校が指定されております。

○高橋委員 そこでなんですけれども、いわゆるグローバル戦略を目的として、いろいろ教育を提供していくと、優秀な子供たちですよ。そういう子供たちは、県外に出ていったし、今も出ていると思うんですけれども、いわゆる宮

崎県内に受け皿が少ないと思います。ある意味では、さっきからも出ていますけれども、海外展開をしている中小企業数、225社あるけれども、ここに私は就職してほしいなと思ったりするわけです。マッチングするかどうかは、いろいろ濃淡があると思いますけれども、特別枠を設けてもらうとか、いろいろやり方はあるんでしょうけれど、どうしてもやっぱり、今まで優秀な人材を宮崎で育てて、県外に就職してらっしゃる。学校教育よる人材育成というのは、いわゆる宮崎のために働いてもらうための戦略だと思うんです。そこら辺が悩ましいところなんだろうけれども。

むしろ私は、この左の1の企業や大学等と連携した人材の育成・確保、ここのほうが大事なのかなと、実は思ったりするんです。今、海外展開をしている企業で頑張っている社員のスキルを今以上に上げてもらう、そういった支援が大事なかなって思ったりします。その辺の考え方をお聞かせいただくと、ありがたいんですが。

○重黒木フードビジネス推進課長 フードビジネス推進課のほうで、戦略4の1の企業や大学等と連携した人材の育成・確保に、今年度から新たに取り組むことにしております。

具体的には、さっき高橋委員がおっしゃったように、我々が取り組むのは主に大学生なんですけれども、県内の大学生が、輸出とか海外展開に取り組んでいる企業が、どういった企業があるのかというのをよく知らないという実態がございますので、そういった学生に対して、県内にこういう企業があるよというのをしっかりPRしていくということが一つ。企業のほうから、中小企業がこういった取り組みをしている以上、こういった学生が欲しいんだ、こう

いうつくりを持った学生が欲しいんだというのをまたとりまして、そこをマッチングさせていこうというのを、この産業人財育成プラットフォームの中で、取り組んでいこうとしております。

具体的な事業としましては、今年取り組みますのは、数は少ないんですけども、学生に海外の企業に、海外留学を兼ねたインターンシップをあっせんするという事業に取り組んでいこうというふうに考えておりまして、大きく2つのコース、1つは、海外の企業で1カ月程度、市場調査等をやっていただくインターンシップを1つ。それと、宮崎大学と連携して、ちょっと長期の、3カ月程度、海外の企業ですとか、市場を調査する留学事業をやろうというふうに。

この2つのコースを用意して、まずは、そういった学生に県内企業を知っていただいて、県内に就職してもらえようという取り組みを進めていこうとしております。

あと、もう一つは、県内企業の中核となる人材のスキルアップを図るということを取り組もうとしておりまして、宮崎ビジネスアカデミーというのをことし立ち上げまして、その中で、中核人材の育成のためのセミナーをこれからやっていこうと考えておりますので、そういった取り組みを含めて、企業と学生のマッチング、企業の人材育成を進めていこうというふうに考えております。

以上でございます。

○高橋委員 学校教育における人材を、私は否定しているわけじゃないんですよ。これはこれとしてやるべきだと思うんですが、今、説明がありました事業がより充実、前進をしていってほしいなという意味で申し上げました。よろしくをお願いします。

○田口委員長 ちょっといいですか。暫時休憩

します。

午前11時6分休憩

午前11時7分再開

○田口委員長 再開いたします。

○蓬原委員 1件だけ。国際交流協会っていうのがありますよね。今、グローバル人材の話が出たもんですから、たしか我々も、年会費幾らか払って、その会員に去年なったような気がするんです。この国際交流協会というのは、グローバル人材の育成との関連で、何かあるんですか。（「国際交流協会」と呼ぶ者あり）国際交流協会というのは、そもそもどういう形態で、何をというのをもう一回改めて、漠然とはわかっているけれども。

○酒匂オールみやざき営業課長 国際交流協会は、公益財団法人でございます。県内の国際化に資する施策を、我々と一緒になってやっております。

特に多文化共生ということで、県民の皆様の外国に対する理解を促進するというものですか外国人との交流、あるいは、実際に今住んでらっしゃる外国人の方々の支援といった形での役割を果たしていただいているところでございます。

○蓬原委員 わかりました。

○田口委員長 ほかにございませんか。

○中野副委員長 先ほど、県内企業の海外進出について、67社という答弁がありましたよね。実は、4年前に私も質問したときに、そういう調査結果はないということで、半年後に調査して、報告があったんですが、そのときは10社あるかないかだったんですけども、その後、こんなにふえたのかということと、そういう進出という概念とか捉え方に違いがあるのかという

ことをお尋ねしておきたいと思えます。

○酒匂オールみやざき営業課長 平成25年の12月の議会で、報告を産業振興課のほうでされた時点での数字を、中野副委員長がおっしゃるとおり、本県に工場がある22社を対象にアンケート調査を実施して、有効回答が14社あったというのを報告させていただいたというのがございます。

私どもは、そういった本県に工場があるだけではなくて、本社、支社がある企業も対象にして、貿易として実態があるかという調査をした中で、67社が何らかの形で、今、海外に事務所を持っているということの数字でございまして、若干ちょっと根拠になる数字が違ってたのではないかなというふうに、今、推察しているところでございます。

○中野副委員長 当時、そういうつもりで質問したんです。先ほどの質問も、東郷メディキットが云々と言われましたが、一緒に調査して、そのことで、そういう意味だけで質問しちよつただけけれども、時間がかかって、十数社という回答だったもんだから、今度はまた違ったなと思ったので、聞いてみたところでした。

○田口委員長 もうよろしいですか。

それでは、これで終了したいと思えます。

執行部の皆さんは御退席いただいて結構です。お疲れさまでした。

暫時休憩いたします。

午前11時10分休憩

午前11時13分再開

○田口委員長 委員会を再開いたします。

まず、先日開催されました委員長会議の結果につきましては、先日の常任委員会で資料の配付がありましたので、説明は省略させていただきます。

きます。御協力のほど、よろしくお願ひいたします。

それでは、協議事項（1）の委員会の調査事項等についてであります。

お手元に配付の資料1をごらんください。

1の当委員会の設置目的につきましては、さきの臨時県議会で議決されたところでございますが、2の調査事項は、本日の初委員会で正式に決定することになっております。

なお、資料1の2、調査事項は、特別委員会設置検討の際に、各会派から提案された調査事項を整理し、参考として記載しております。

調査事項は、今後1年間の活動方針を決める重要な事項であります。特別委員会の調査活動は、実質6回程度しかございません。有効な提言を行うためにも、少し時間をとって御議論いただきたいと思いますと思っております。

調査事項につきまして、委員の皆様から御意見がありましたら、お願ひいたします。（「休憩」と呼ぶ者あり）

○田口委員長 じゃあ、ちょっと一遍休憩します。

午前11時14分休憩

午前11時20分再開

○田口委員長 委員会を再開いたします。

それでは、皆様の御意見を踏まえまして、調査項目は、1の本県の経済戦略に関する事、インバウンド対策に関する事、アジアとの交流促進に関する事、輸出拡大に向けた取り組みに関する事の4つで行いたいと思えますが、どうでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○田口委員長 では、そのように決定いたしました。

次に、協議事項（2）の委員会の調査活動方針・計画についてであります。

活動方針（案）につきましては、資料1の3に記載のとおりであります。

活動計画につきましては、資料2をごらんください。

これにつきましては、議会日程や委員長会議の結果を考慮して、調査活動計画（案）を作成しております。

活動計画の案につきまして、何か御意見がありましたらお願いいたします。

○緒嶋委員 経済戦略の中で、海外にも1回も行かんで、海外戦略を語るができるのかな。

（笑声）県外というのは、これは、国外も入れるわけ。（発言する者あり）

○田口委員長 ちょっと、暫時休憩します。

午前11時22分休憩

午前11時35分再開

○田口委員長 委員会を再開いたします。

一応、この計画案はこのままの形で生かしておいて、今後の協議によりまして変更も出てくるということではよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○田口委員長 それでは、そのように決定いたします。

一応、先ほどのところでもありましたが、県内調査につきましては、7月28から29日が県南、8月23、24日が県北地区の調査を予定しております。

県内調査するかどうかもあるはずですから、調査先のどこに行きたいとかいうのは、もうこの場ではいいですか。（発言する者あり）

○緒嶋委員 定例会中の特別委員会での議論を経て、後を決めるということ。

○田口委員長 では、今後の議論の中で、どうするかということを決めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次に、協議事項（4）の次回委員会についてであります。

先ほど協議していただきました調査事項を踏まえまして、次回の委員会での執行部の説明資料要求について、何か御意見や御要望はございますか。

○蓬原委員 先ほどの企業のA社、B社でいいですから。

○中野委員 A社、B社じゃなくても名前……。

○蓬原委員 わかるのは当然です。隠さないかんところが、A社、B社。

○田口委員長 先ほどの企業の件は理解しておりますが、執行部に対して何か説明を求めるものは特にございませんか。

○蓬原委員 別にありません。私はありません。

○中野委員 それと、グローバル戦略の予算は、さっき11億円って言ったでしょう。11億円っていうのは物すごく多いと思うけれども、各課にいろいろぶら下がっているのを、みんなこれにしたぐらいの話じゃ、実際、本当に何するのって言った場合、その11億円も、例えば、香港の人件費まで、借り上げまで入れているのか。そこ辺の、11億円の一応事業費ベースの予算、こっちもどんな補助金になっているか、わからんですもんね。

○田口委員長 わかりました。じゃあ、11億円の内訳も含めてということですね。

○中野副委員長 前年度4億円あったのが、わずか1年で11億3,000万円という捉え方です。前年が11億3,000万円要るときに、前年度は本当に4億円だったのかです。どうも不思議でならない。単にふえたんだろうかと思って、聞いてい

たですがね。具体的に……。〔発言する者あり〕

○田口委員長 ちょっと待ってください。暫時休憩します。

午前11時37分休憩

午前11時38分再開

○田口委員長 委員会を再開いたします。

ただいまの皆さん方の御意見を参考にいたしまして、次回の委員会の説明資料等を要求したいと存じます。

最後になりますが、協議事項（5）のその他でございます。

皆さん、何か御意見はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○田口委員長 よろしいですか。

それでは、次回の委員会は、6月定例会中の6月20日月曜日午前10時からを予定しております。よろしく願いいたします。

それでは、以上で本日の委員会を閉会いたします。

午前11時39分閉会